



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し……」

聖書(エフェソ書2章14節)

牧師 河合裕志

「キリストはわたしたちの平和」とはどういうこと? それは「二つのものを一つにした」ということ。二つのものとはユダヤ人と異邦人を指している。ユダヤ人は自分達を神の選民として誇り、他民族を汚れた民として軽蔑していた。異邦人もユダヤ人を鼻持ちならない連中として見下していた。両者の間には「敵意」があり「隔ての壁」があった。

この壁は見える形でも存在した。当時エルサレムの神殿にはこれを囲むようにして三つの庭があった。外側から順に異邦人の庭、婦人の庭、そしてイスラエル(ユダヤ)人の庭・祭司の庭というように。この壁を越えると死罪とされた。異邦人は神から最も遠い人間の扱いとされた。

こうした現実の只中にキリストが来た。そして「二つのものを」、ユダヤ人と異邦人を「一つにした」、「敵意という隔ての壁を取り壊した」。どうやって? 「ご自分の肉において」。これはキリストが十字架についたことを指している。

パウロは次のところにこう記す。「キリストは……十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました」。キリストの十

字架は①神との和解と、②人との和解をもたらしただけでとらえられている。

①神との和解。ユダヤ人も異邦人も神から見るならば共に罪ある存在、従って神の怒りの対象。この神と人間との間にキリストが立ち、自ら人間の罪を背負って十字架について神の怒りを代って受けた。神はキリストの犠牲死に免じて人間と和解した。人間の罪を赦し仲直りをし、神と人との交流の道が開かれた。

②人との和解。ユダヤ人も異邦人も共にキリストの十字架によって罪を赦されたお互い同士。そのことを知って今や敵意の壁を越えて和解し仲直りし、平和のうちに共存しなければならない。なにもないところで両者の和解は難しい。しかしすでにキリストの十字架は立っている。この十字架を全ての人が仰ぎ見ることが求められる。

今でも人種と人種の間、民族と民族の間に敵意が、差別が存在している。ヘイトスピーチがあつたりする。実に嘆かわしい事。これでは何のためにキリストが十字架にかかったのかわからない。キリストが一番悲しんでいる。全ての人よ、キリストの涙を見よ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時